

手術映像を大画面表示

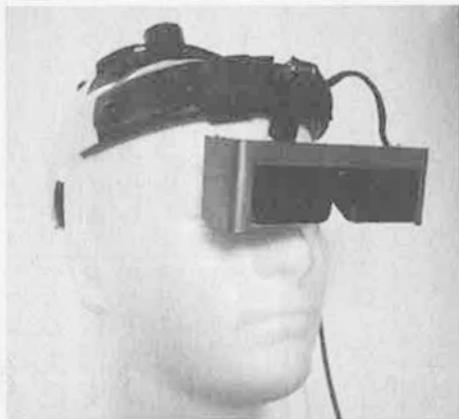
エフエーエー 眼鏡型ウェアラブル システムエンジン

【松山】エフエーエーシステムエンジニアリング(松山市、中村康則社長)は、ロボット手術や内視鏡手術の3次元(3D)映像を大画面表示する眼鏡型ウェアラブル端末(スマー

トグラス)タイプのヘッド・マウント・ディスプレイ「3D・V・V-HMD」を5月末に発売する。価格はオープン。

同製品は、手術部位の高精細な3D映像をリアルタイムに表示する。従来品は画角が小さく重たいという課題があったが、同製品はより画面サイズの大きなディスプレイモジュールを採用。フルハイビジョン対応になり解像度は従来比約2・2倍になった。

総重量は約260gで、従来はメガネフレーム式で耳に荷重が掛かっていたものをヘッドバンド式に改良。耳や首への負担も軽減され、長時間の手術にもストレスなく対応できるといふ。装着中でも目とレンズの間から下部を目視できるので、術野を直接見ることや外部とのコミュニケーションも可能にした。ヘッドバンドとレンズ部分をつなぐ3軸のアームを動かすことで視点調整ができる。



高精細な3D映像をリアルタイムに表示する。従来品の画角や重量の課題を克服